

市町村における母子保健サービスのあり方に関する研究 —岩手県—

国保保健婦の活動を中心として

菅原恒有（岩手県衛生研究所）

畠山富而（岩手医科大学小児科）

伊藤ルリ（岩手県立衛生学院）

地域における国民健康保険保健婦の活動を中心に今後の母子保健サービスの在り方を検討した。

最初に岩手県における就業保健婦は昭和50年末現在401名でそのうち国保保健婦は昭和51年3月現在294名である。国保保健婦1人当り国保人口（被保険者数）の県平均は2,440人で、県下62市町村のなかで1人当り国保人工の最も少ないのは沢内村の951人、最も多いのは種市町の5,639人となっている。この数字は全国に比較すると上位グループに入り充足率はよい方である。

次に国保保健婦1人当り市町村人口をみると県平均は4,713人となっており最も少ないのは沢内村の1,220人、最も多いのは盛岡市の13,513人で最小最多の差は国保人工のそれよりもはるかに大きい。国保保健婦1人当り国保人口と市町村人口の関係を第1図に示した。また市町村国保加入率と保健婦1人当り市町村人口の関係を第2図に示したが、国保加入率の低い市が何れも保健婦1人当りの人口が多い。

また国保保健婦の家庭訪問の状況を見ると国保被保険者とそれ以外の者の比率は必ずしも国保加入率と平行しない。第3図にこの関係を示したが、多くの市町村が国保被保険者を重点に家庭訪問を実施していることがわかる。もともと国保保健婦は国民健康保険保健施設として被保険者を対象に設置されたものであり以上のような結果は当然であろう。

さて以上のような市町村における保健婦活動の現状を考慮し岩手県下62市町村から江刺市ほか3町村を対象に各種の検討を行なった。

1. 対象市町村の概況

4市町村の人口ならびに国民健康保険の状況は概ね第1表のとおりである。

人口についてみると江刺市は県下13市のうち最下位グループに属し、石鳥谷町ならびに花泉町は町のなかでは人口の多いグループに属する。都南村は盛岡に隣接する特殊事情から県下18村のうち最も人口が多い。

また人口密度（1Km²）は昭和51年10月現在で江刺市100.5、石鳥谷町136.3、花泉町132.3および都南村251.8でいずれも県平均91.2を上廻っているが都南村を除き県平均に近い。

つぎに国保の加入率についてみると江刺市の加入率は13市のなかで高いグループに属し、江刺市は1町8村を合併した農村都市の性格が反映している。石鳥谷町ならびに花泉町は県下31町のうち中位グループに属しているが、江刺市と同様に県平均をかなり上廻っている。都南村は都市に隣接する町村の一般的傾向としてベッドタウン的色彩が濃く国保加入率は県下全市町村中最も低いグループに属する。

2. 対象市町村の医療供給状況

次に保健サービスと最も関連の深い医療サービ

スについてみると第2表にみられるとおりに入院外はともかく入院医療に関しては隣接都市の医療機関への依存度が高い。

第2表にみられるとおりに都南村の特殊な例は別にしても都市をとり巻く町村の側面を物語っている。第2表の医療依存のうち入院について隣接市に対する医療依存との差は盛岡市あるいは仙台市などの都市医療機関で受療しているものと考えられる。

一般に医療機関の選択はその地方の経済の中心地への指向性が強く、このことは本県に限らず全国的な傾向と考えられる。

今回の対象市町村と依存度の高い近隣都市との関係は第4図に示したとおりである。

なお隣県宮城県と境を接する花泉町においては一部住民は宮城県の医療機関を利用している現状である。

3. 対象市町村の出生児の出生場所について
対象の4市町村の出生児の出生場所について第3表に示したとおりである。

第3表をみると第2表に示した医療機関の選択傾向とほぼ同一の傾向を示している。とくに都南村には調査時点で産科医師がいないこともあり地元での出生は0となっている。

施設分娩とくに入院分娩が普及した今日、分娩が病院で行なわれることはごく当り前のことに地域住民は思っている。

また分娩の場所は妊娠の確認を受けた医療機関になることが多い。さらに妊娠中の保健指導もその医療機関で受けているのが実情である。

現在までの研究のまとめ

以上の対象市町村の現状をふまえて次の各項目について検討を行った。

ア. 昭和52年に出生した乳児に対して妊娠時からの記録カードを作成し今後就学まで利用されるようにした。

カードは神奈川県子どもセンターで使用しているものを利用した。

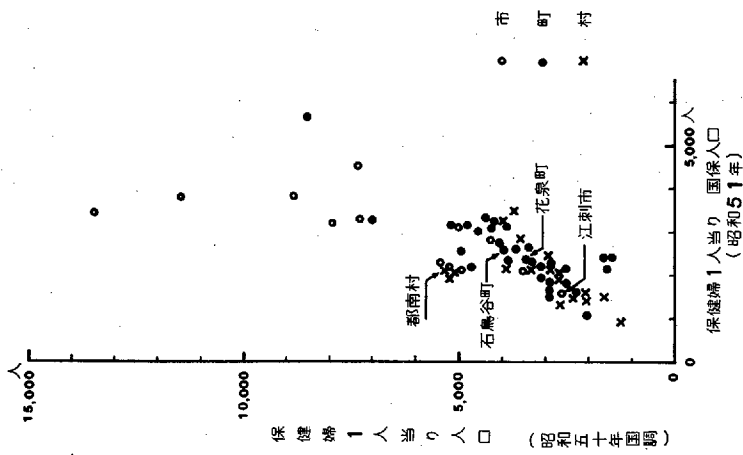
従来の各市町村で使用している乳幼児保健指導のカードは育児指導、発育観察に重点が置かれており本研究には適当でないと考えられた。

イ. 従来から国保保健婦は国民健康保険施設として被保険者を対象として設置された経緯もあり、家庭訪問については国保以外の対象者に対する訪問指導比率が市町村によってまちまちであり、今後国保保健婦の市町村職員への身分転換による制度改正に際しては充分指導の必要性が認められた。

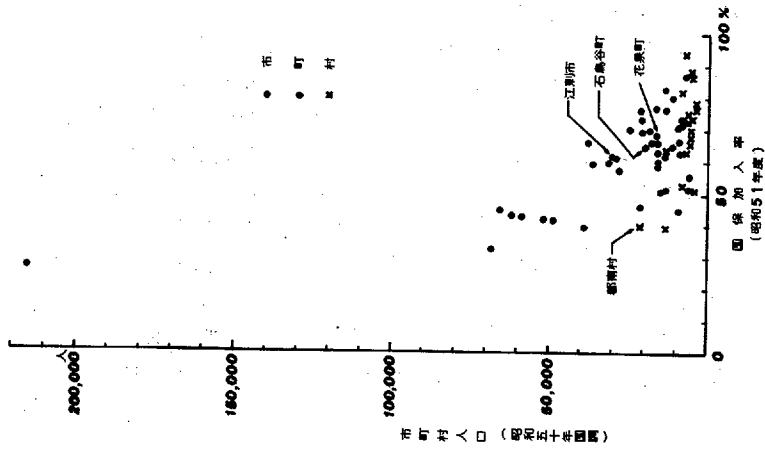
ウ. 対象市町村住民の受療機関ならびに出生児の出生場所から考えて以前のように母親の住所地の市町村だけ考えることは適当ではない。住民の目的別行動半径が空間的な拡がりを持つ時代となった今日では保健指導のための情報入手についてより合理的な方法を検討する必要性が感じられた。

とくに江刺市の住民が水沢市の医療機関において受診あるいは保健指導を受けた場合は管轄保健所が異なることも関係し、その情報がかなり遅れて伝達されていることも今後検討を要する。

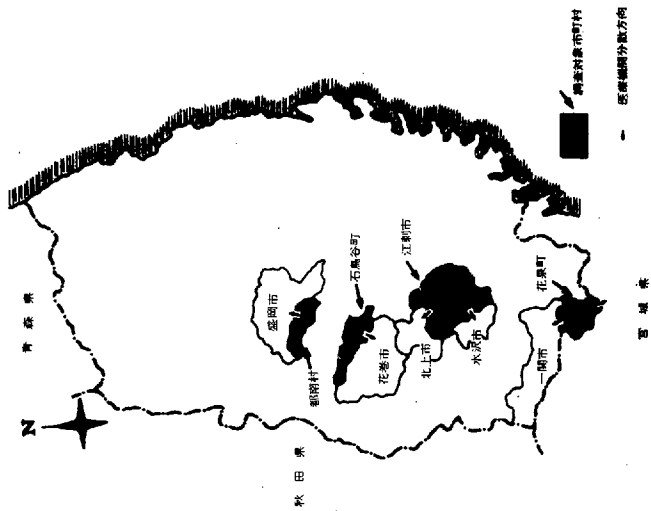
また母子保健法に基づく妊婦ならびに乳児の健康診査を医療機関に委託して実施する場合に医療機関から保健所に対する費用の請求が遅れ、従って保健所はもとより市町村に情報が入るのはかなり日時を要し保健指導に必ずしも活用されていないので受診票と一語に葉書を交付する方法も検討している。



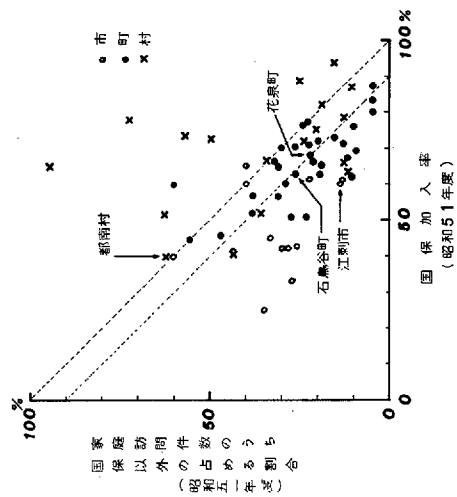
第1図 保健婦1人当り人口



第2図 市町村人口と国保加率



第4図 対象市町村と隣接市



第3図 家庭訪問と国保加入率 (昭和51年度)

第1表 対象市町村の概況

	昭和50年 国調人口	昭和51年度 国保人口	国保加入率	国保 保健婦数 51年3月	保健婦1人当 市町村人口	保健婦1人当 国保人口
江刺市	36,336	21,731	59.8	14	2,596	1,552
石鳥谷町	16,009	10,154	63.4	4	4,002	2,539
花巻町	17,404	11,930	68.6	5	3,480	2,386
都南村	21,482	8,562	39.9	4	5,371	2,141
岩手県	1,385,602	717,401	51.8	294	4,713	2,440

第2表 対象市町村の医療需給状況

	医療機関数(床)		医療自給率		他市町村 医療依存率	
	病院	診療所	入院外	入院	入院外	入院
江刺市	1 (210)	12 (184)	79.5	55.4	20.5 (水沢市 16.6)	45.6 (水沢市 31.2)
石鳥谷町	1 (58)	8 (51)	62.3	44.5	37.7 (花巻市 30.6)	55.5 (花巻市 34.2)
花巻町	1 (90)	8 (30)	69.0	43.8	31.0 (一関市 10.2)	56.2 (一関市 36.6)
都南村	4 (65) 35診療440	7 (55)	43.9	12.0	56.1 (盛岡市 56.1)	88.0 (盛岡市 85.0)

昭和50年岩手県医療調査

第3表 対象市町村の出生状況

	昭和52年 出生数	地元市町村 出生数	県内 他市町村 出生数		岩手県外
			隣接市町村 出生数	その他	
江刺市	469	273 (58%)	水沢市 128 北上市 24 (32%)	44 (10%)	—
石鳥谷町	216	129 (60%)	花巻市 47 (22%)	40 (18%)	—
花巻町	236	85 (36%)	一関市 137 (58%)	4 (2%)	10 (4%)
都南村	470	0	盛岡市 406 (86%)	65 (14%)	—
合計	1,391	487 (36%)	741 (53%)	163 (11%)	10

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

地域における国民健康保険保健婦の活動を中心に今後の母子保健サービスの在り方を検討した。

最初に岩手県における就業保健婦は昭和50年末現在401名でそのうち国保保健婦は昭和51年3月現在294名である。国保保健婦1人当り国保人口(被保険者数)の県平均は2,440人で、県下62市町村のなかで1人当り国保人口の最も少ないのは沢内村の951人、最も多いのは種市町の5,639人となっている。この数字は全国に比較すると上位グループに入り充足率はよい方である。